

★「極意」伝承道場 Q&A

Q1：参加申込みは、どのようにすればよいですか？

A：信濃教育会ホームページ／「極意」伝承道場のページ／令和6年度申込みフォームよりお申し込みください。ご入力いただいたメールアドレスに申込み確認メールを送信します。ご不明な点は、下記「問い合わせ先」にご連絡ください。

Q2：「極意」伝承道場の魅力は何ですか？

A：昨年度の受講者からは「指導者から学べること」「指導者に自分の取組について相談できること」「受講者同士が教育について議論できること」「普段では体験できないことを学ぶことができること」「年間複数回同じメンバーで和気藹々とした中でも、真剣に、貪欲に学ぶことができること」「今後もつながりがもてること」などがよさとしてあげられています。

Q3：すべての回に参加できないと申し込みはできませんか？

A：参加できない回があっても、申し込みはできます。欠席する回については、指導者にご相談ください。

Q4：指導者が中学校の先生ですが、小学校の先生が受講を申し込んでもよいでしょうか、教科等の専門外でも申し込んでよいでしょうか？

A：小学校中学校の学びのつながりの理解を深める意味でも大切なことだと考えます。申し込んでいただいて構いません。校種や専門性という縛りより、講座内容を大切に考えて、自分が学びたい講座を決めてお申し込みください。

Q5：定員が1講座5名程度となっていますが、6名以上になると抽選になりますか？

A：応募者が6名以上になった場合は、指導者と相談させていただき、なるべく受講者を受け入れていただきます。令和5年度は受講者が10名の講座もありました。あまり多すぎる場合は信濃教育会の正会員を優先させていただき、抽選になる場合は信濃教育会担当が責任をもって抽選をさせていただきます。

Q6：受講者が自分の授業を指導者に参観していただくことはできるのですか？

A：受講者の学校で「極意」伝承道場を開催して、その際、受講者の授業を参観していただくことも可能です。指導者にご相談ください。

Q7：二つの講座に申し込むことはできますか？

A：学びを深めたいというお気持ちは理解できるのですが、一つの講座に絞っていただければと思います。

Q8：受講したい講座の指導者が自分の学校の先生です。参加申込みはできますか。

A：できます。校長先生や指導者の先生に話をさせていただくとスムーズにいくかと思います。

Q9：「こんな先生におすすめ」と書いてありますが、その条件に沿わないと参加申込みはできませんか？

A：「おすすめ」は目安ですので、参考にさせていただくという意味で書いてあります。この条件に当てはまらない先生方も申込みいただけます。様々な年代の先生方が同じ講座にいるというのは、ある意味すごい強みだと思います。

Q10：参加申込書にある「メールアドレス」「校長先生に参加申込みをすることは伝えましたか」はなぜ必要なのですか？

A：「メールアドレス」は指導者に伝え、連絡を取ることにのみ使用します。また「メールアドレス」は信濃教育会と受講者が連絡を取る時にも使用させていただきます。受講者の情報は本講座以外のためには使用しません。「校長先生に参加申込みをすることは伝えましたか」は、今後、「極意」伝承道場へ参加する上で校長先生に知っていただいた方がよいと思いますので、申込み前に必ずお伝えください。

Q11：「極意」伝承道場の開催日はどのように決まるのですか？

A：5月30日（木）15:40から指導者、受講者全員参加でオンラインによる全体会を行います。その折に指導者から開催日を含めた内容の提案があります。その時に指導者と受講者の合意で決めていただきます。受講者は5月30日（木）の会には必ず参加してください。欠席の場合は、下記担当までご一報をお願いいたします。

Q12：令和5年度の「極意」伝承道場の実績を教えてください。

A：令和5年度は、15名の指導者で合計で83名の受講者で開催しました。各講座は年間4回から7回の開催でした。年度末に受講者に感想を書いていただきましたが、満足度100%でした。

問い合わせ先 電話 026-232-2258 か メールgokui@shinkyu.or.jp 担当 清水秀明（研究調査部）まで

令和6年度 「極意」伝承道場

【令和5年度 指導者の言葉より】

児童・教師ともに学校生活の大半を過ごす教室が、いかに居心地がよく、意欲が高まる場所になるか。また、学校生活のどの瞬間も一人ひとりが想いを発せられ、友との交流が図られる場所であるか。子ども達のために探究し続けることが、教師自身が自分らしさを発揮できることで、意義深いことです。



「極意」伝承道場は、目の前の子どもたちに還る学びを提供します

★「極意」伝承道場 指導者からのメッセージです

◎学校へ配付した「極意」伝承道場のご案内には記載しきれなかった内容です。受講したい講座を見つける参考にしてください。

講座番号	所属学校	指導者	指導領域	どんな道場か	こんな先生におすすめ
第1講座	平根小学校	森田 明彦	授業づくり	「子どもは何を、どのように学んだのか」を「子ども」「教材」「教師」の繋がりを視点に授業映像を通して検討する講座です。私が影響を受けた先輩の先生や、仲間の先生、大学の先生等も都合が合えば交え、検討会を行う予定です。	授業づくりに関心があり、「授業」（子どもや教材、「私」という教師）を語り合い、互いに触発されの中で教師としての専門性（選択・判断）を高めたい先生方。※尚、本講座はスーツ着用ではなくカジュアルな服装でご参加ください。
第2講座	本原小学校	手島 秀一	地域学習	子どもと先生が地域のことを知り、地域のことがもっと好きになる講座です（主に鉱物・岩石・化石）。	地域のことを知りたい先生方、地域素材を子どもの学びにどう生かすか考えたい先生方
第3講座	中洲小学校	今村 勇一	学級経営	子どもにとって居心地が良い教室環境の整備や、心が通い合える学級集団づくりを、どのようにおこなっていくと良いかを考えます。	子ども達とともに楽しく毎日を過ごしていきたいと願われている先生方 学級経営に新たなアイディアを取り入れたいと考えている先生方
第4講座	箕輪中学校	松島 利之	キャリア教育	子どもたち一人ひとりのキャリア形成につながるために、子どもたちが、地域の人々のさまざまな価値観や生き様に触れることができる場面を考える講座です。	地域の方々と関わり、自分自身も学びたいと持っている先生方、教職員以外の方々と子どもを育てることについて語り合いたい先生方
第5講座	遠山中学校	有賀 俊幸	児童・生徒・保護者・地域の方とのかわり方	子どもたちとのかかわり方伝え方、保護者との懇談や話し方、地域の方との連携を一緒に考えていく講座です。	子どもたちとの関係づくりや保護者との懇談ややりとりに悩む先生方、地域の皆さんの人材活用を進めたいと考えている先生方
第6講座	木祖小学校	小川 淳	体育授業づくり	全員が楽しめる体育の教材開発と具体的な授業展開を考えます。	全員がゲームの中で何回もボールに触れることができるボール運動、器械運動の具体的な指導に悩んでいる先生。
第7講座	広丘小学校	齊藤 博正	体育学級づくり	楽しい・できる縄跳び（短縄や長縄）や手作り遊びを通して、学級づくり（人間関係づくり）について考える講座です。	子どもたちを運動好きにしたい、上達させたい、運動を通して認めあえる集団づくりをしたいと考えている先生方
第8講座	穂高西中学校	丸山 哲由	算数・数学	子どもが自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりする対話をしながら数学的に考える面白さを体感できる授業を考えます。	算数や数学の指導で悩んでいる先生方、数学の面白さを伝える授業を实践したい先生方
第9講座	小谷中学校	嶺村 岳	道徳	生徒がそれぞれの道徳的価値について自分事として考えるために、生徒が主体的に「問い」を考えたり、友と多面的・多角的に考えを深めたりすることのできる活動を考える講座です。	道徳の授業で、生徒が他人事として考えがちになっていると感じている先生方、やや授業がマンネリになってしまっている先生方

第10講座	屋代中学校	香山 俊路	不登校生の支援	不登校、不適應の児童生徒を見捨てない支援の在り方について考える講座です。	不登校、不適應の児童生徒の対応に苦慮している先生方。
第11講座	墨坂中学校	田幸 康宏	特別支援教育	その子らしさを大切に子どもをとらえ、支援策を共に考えていく講座です。	発達障がいなど子どもたちの多様な困り感に寄り添っていききたい先生方
第12講座	南宮中学校	竹内 雅人	特別支援教育	子どもたちの生活の豊かさにつながるように、その子に応じた学び方を考える講座です。	心のストライクゾーン（子どもについて考える視点）を広げたい先生方
第13講座	城南中学校	丸山 幸恵	不登校生の支援	不登校生や不登校傾向の児童・生徒の「居場所」や「居場所づくり」について考えます。	保健室登校で悩んでいる先生方。居場所とは何か。居場所づくりに取り組んでいる先生方。
第14講座	昭和小学校	浦田 誠一	特別支援教育 (支持的雰囲気 と学級経営)	笑顔でつながろう 特別支援教育を窓口としていくつかのアプローチを参加者で考え合う講座です。私は特別支援教育がプロではありません。だからこそ特別支援学級と通常学級のつながりについて考えて見ましょう。	学びはとまらない 私は今、子ども達を目の前にして困っています。悩んでいます。 一緒に考えられる先生方。そして学び続けることに関心のある先生方。
第15講座	安茂里小学校	両角 啓	学級経営 (通常学級・特別支援学級)	通常学級・特別支援学級で、どの子どもも安心感と自信をもって学習活動に取り組める学級づくりについて、また、原学級と支援学級の連携について考える講座です。	通常学級・特別支援学級の学級経営・運営について悩んでいる先生方。特別支援教育・UD化・合理的配慮について学びたい先生方。
第16講座	波田小学校	青柳 智之	器械運動の指導	個人の技能差が出やすい器械運動に「集団」で取り組むことで、対話を通して思考力や調整力を高めながら主体的に学び、楽しさを味わうことができる授業づくりを考える講座です。	器械運動の授業づくりに悩んでいる先生方、新たな授業づくりに挑戦したい先生方 (小・中学校どちらでも可)